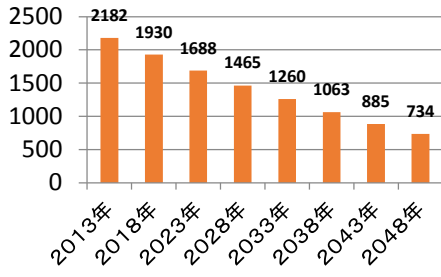


## ① 須佐・窪田地区の現状 —人口・拠点施設

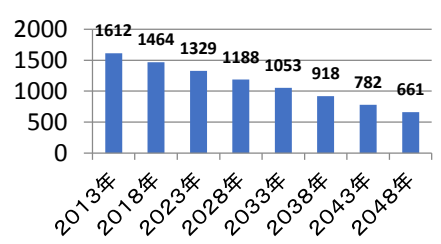
### ★須佐地区の人口予測



### 須佐地区

人口: 1,930人(2018年住民基本台帳)  
 高齢化率: 41.76%(〃)  
 商店: JA直営スーパー他3店舗  
 学校: 須佐小学校  
 公共施設: 市役所支所、ホール、体育館等  
 町の中心(反辺)と最長距離の集落: 約10km

### ★窪田地区の人口予測



### 窪田地区

人口: 1,464人(2018年住民基本台帳)  
 高齢化率: 44.4%(〃)  
 商店: 3店舗  
 学校: 窪田小学校、佐田中学校  
 公共施設: 飯の原農村公園  
 佐田地域の中心(反辺)と最長距離の集落: 約13km

## —担い手組織

- ・平成15年度末 佐田地域内に13振興協議会設立
- ・平成17年4月 佐田自治協会設立(構成: 13振興協議会)
- 各振興協議会毎に、福祉、特産品開発、交流事業などを実施
- ・平成23年度2月に、「佐田地域まちづくり計画(平成24~28年度)」を策定
- テーマ 文化・産業と健康・福祉の住みよい環境づくり
  - ・コミュニティ活動の推進
  - ・産業振興、若者定住の推進
  - ・福祉、健康、子育て支援、防災による安心のまちづくり
- 佐田地域まちづくり計画(平成24~28年度)で挙げられた取組みのうち、
  - ◎実践できた計画
    - 宮農集団参画・連携の「未来サポートさだ」組織化による6次産業化の推進
  - ◎自主防災組織活動 など
- ・平成30年7月 佐田自治協会「小さな拠点づくり部会」設立

## ② 須佐・窪田地区の課題

- 各振興協議会活動に対する意識・意欲が低下し、役員のなり手不足、主体的な地域課題解決への実践事例が少ない。
- 住民自治組織が重層化しており、互いの役割を確認し、行政、コミュニティセンターとの連携軸の構築が必要である。

## ③ 支援状況・佐田地域(須佐・窪田)を一体として展開した。

### 機運醸成・人材育成

- (1) 佐田自治協会会報に「小さな拠点づくり活動」を掲載し、全世帯に配布。
- (2) 研修会、先進地視察への参加。

### 計画・体制づくり

- (1) 佐田自治協会での「小さな拠点づくり部会」運営支援

### 実践活動

- (1) 「小さな拠点づくり部会」で各振興協議会の「組織棚卸調査」の実施
- (2) 毛津・橋波・原田振興協議会で「住民意識調査」の実施
- (3) 西山中自治協会での地域実態調査の実施
- (4) 島根大学教育楽部 作野教授によるアドバイス、学生による現地踏査

## ④ 成果見込み

### (1) 体制づくり:

- ・佐田自治協会内に「小さな拠点づくり」部会が組織され、改めて自分たちの住む佐田地域について議論を重ねた。
- ・振興協議会の組織調査を踏まえ、見てきた課題に対する分担までを現体制で協議した後、実践的な体制への移行を検討する計画である。

### (2) 計画づくり:

- ・当面は、主体的に取り組む振興協議会の「地区計画づくり」に向け、支援している。
- ・毛津、橋波地区では「住民意識調査」を終え、組織見直しを含む計画策定の段階に入っている。
- ・佐田地域全体については、振興協議会と佐田自治協会の役割を再考した後、計画策定に取り組むべきと話し合っている。

### (3) 実践活動:

- ・各振興協議会にアンケートを実施し、現在行っている良い取組の評価と「困りごと」の洗い出しを進めた。
- ・西山中、毛津、橋波、原田地区の振興協議会単位での「住民意識調査」などを支援した。先行した地区の取組を、他地区にも広げるよう広報、相談にあたった。

## ⑤ 残る課題

- (1) 出雲市、コミュニティセンターと佐田自治協会との連携を深め、拠点づくりを推進する。
- (2) 住民自治運営組織をはじめ「組織」のあり方を構築する。
- (3) 佐田版中間支援組織のあり方を考察し、実践する。
- (4) リーダー養成講座(仮称)の開催により、人材育成を図る。
- (5) 住民への啓発を充実する。
- (6) JA、商工会など関係機関との情報共有を強固にする。

## 須佐・窪田地区における小さな拠点づくり = 「自分事」による持続可能な地域づくりとは？

### 【自治協会】

- 組織構造・振興協議会領域の見直し
- 啓発活動の充実

### 【生活支援】

- 買い物・医療機関等への移動支援
- 身近場での高齢者等集いの場の創出

### 【地域産業】

- 小人数による雇用の場
- 「未来サポートさだ」を基軸とする6次産業化の推進

この取組みがまだ弱い

平成31年度では、より住民の皆さんが主体的に取り組めるように、「情報共有」が重要視され、「話し合い」の機会をより多く持つことが必要とされている。

## 総括

佐田自治協会を核として、地域計画づくりなどを推進し、各施設・機関の「拠点機能」を明確化にしていく。  
 ⇒各振興協議会単位で、地域計画づくりを進め、佐田地域全体のビジョンが描けるように、啓発、計画づくり支援を強めていく。

⇒自治協会のみでなく、若者・女性グループでローカルビジネスが展開できるように協働していく。